日本ビオトープ協会 2018

ビオトープ No.41

特集「生態系インフラを活用したまちづくり」

エゾシカの群れ
(北海道野付郡別海町 野付半島)
写真 内海 千樫 氏 提供

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会

目　次

頁

巻頭言

持続可能（SUSTAINABLE）な生態系インフラ
野澤　日出夫 …… 1

特別寄稿

COP10以降の愛知県の生物多様性保全の取組について
～生態系ネットワークの形成と愛知目標達成への貢献～
大村　秀章 …… 2

台北科技大学「エコキャンパス」への道程
蔡　仁惠 …… 6

シリーズ連載

ビオトープのいきものたち －その27－ ビオトープと外来生物
神垣　健司 …… 12

会員・BA等投稿

ビオトープ×在来種養蜂 その可能性について
藤原　愛弓 …… 14

イラクサに育つ蝶達
内海　千樫 …… 16

鳥が運ぶタネを活かした生物多様性保全の取り組み
－ダイキン滋賀の森における従業員主体の森づくり－
濵田　知宏 …… 18

協会活動状況

各地区委員会〈8地区〉活動　計画・報告等
／本部　お知らせ・ご報告
各地区委員長／協会事務局 …… 20

連載コラム

「ビオトープを知る、五つのヒント」　その2 指標生物：少数派を守れ
立川　周二 …… 24

◇表紙・裏表紙写真の説明◇
本号の表紙写真は、裏表紙写真ともに、幌加内町の内海千樫氏がご自宅のビオトープ、他で撮りためてきた生き物写真の中からご提供頂きました。
・表紙：天敵のエゾオオカミが絶滅して、エゾシカが増えています。雪の少ない野付半島は格好の越冬場所になっています。
・裏表紙：大津海岸は十勝川で結氷して風で打ち上げられた氷でいっぱいになります。流氷と違い透明でキラキラと光ります。
◇内海千樫氏：北海 道幌加内ビオトープ研究会代表、日本ビオトープ協会会員。1978年より幌加内町在住。現在、北海道ネーチャーマガジン「モーリー」（北海道新聞社）で「アオサギの悲哀」を連載中。2017年6月に写真集「蒼鷺」（共同文化社）が出版されました。動物写真家であり、動植物・昆虫などの写真撮影を通じて、その生態観察は欠かせず長年研究を続けてこられ、ビオトープに地道に取り組んでおられます。